

道普請人ミャンマー駐在員 活動報告書

提出日：2019年3月21日（木）

氏名：庄司 洪大

駐在期間：2018年3月11日～2019年2月22日

駐在場所：ミャンマー

内容

1. 駐在員として実施した業務について
2. 駐在員として仕事をする上で心がけていた事
3. 駐在員の仕事のやりがいや魅力
4. 終わりに

1. 駐在員として実施した業務について

道普請人ミャンマー駐在員として実施した各業務について以下で概要を説明します。

1) 全体の事業進捗の管理、活動計画の策定

現地スタッフと定期的にミーティングを行って、事業の進捗の確認、活動計画の策定を行いました。



写真1：現地スタッフとの月例ミーティング様子

2) 日本人スタッフの渡緬スケジュール調整、航空券、ビザ、村落立ち入り許可の手配

上司の木村理事長や福林理事、日本人専門家の渡緬スケジュールの調整や、渡緬時の航空券、ビザ、村落立ち入り許可（日本人が事業地の村に行く際にミャンマー政府から取得する許可）の手配などを行いました。

3) 専門家の業務補助

日本人専門家の現場での技術指導に同行して、適宜通訳など、専門家業務の補助を行いました。



写真 2：専門家による現場での技術指導



写真 3：村の集会場での技術研修様子

4) 予算の管理、調整

事業全体の予算状況を定期的に確認し、助成を得ている外務省の規定に則りながら、予算管理、調整を行いました。

5) 日本大使館への報告

定期的に在ミャンマー日本大使館を訪問して、事業の進捗や成果の報告を行いました。

6) 外務省に提出する書類の作成

助成を得ている外務省に対して提出する書類（事業申請書、事業完了報告書など）の作成を行いました。

7) 2週間報告の提出

2週間ごとに上司に活動報告書を提出し、事業の進捗や成果について団体内での共有を図りました。

8) 外務省や日本大使館の事業地の視察や調査の受け入れ

外務省や在ミャンマー日本大使館により実施される事業地の状況調査、事業地視察の受け入れを行いました。



写真 4：日本大使館職員による
事業地の状況調査



写真 5：外務省担当官による事業地視察

9) MoU 署名式への出席

MoU 契約（NPO や NGO がミャンマーで事業をする際にミャンマー政府と結ぶ、事業内容や予算規模についての契約）の更新のため署名式に出席し、MoU 契約の更新を行いました。



写真 6：MoU 契約書に署名する様子



写真 7：ミャンマー地方道路開発局の局長と
MoU 契約書の取り交わし

10) 事業総括ワークショップの準備、開催

主にミャンマー地方道路開発局の職員に対しての事業報告、技術共有を目的とした事業総括ワークショップについて、ミャンマー地方道路開発局との調整、準備、開催まで行いました。ワークショップではPPTを使って、事業説明と各事業地での施工技術の紹介を行った後、近くの施工現場へ案内し、現場にて日本人専門家から施工技術の説明や行政職員との意見交換を実施しました。



写真 8：PPT を使った事業紹介



写真 9：ワークショップに参加いただいた
地方道路開発局職員の方々



写真 10：ワークショップでの記念撮影



写真 11：施工現場にて専門家と行政職員で
意見交換する様子

11) ミャンマー政府との打ち合わせ、事業説明

必要に応じて地方道路開発局の事務所を訪問して打ち合わせを行い、上記の MoU 契約の更新や、総括ワークショップの開催などについての政府との調整を行いました。時には資料を準備して事務所を訪問し、事業説明を行いました。



写真 12：ミャンマー地方道路開発局副局長
と面会しての打ち合わせ様子



写真 13：ミャンマー地方道路開発局事務所
にて事業説明をする様子

12) ゲストの受け入れ対応

思修館の学生（京都大学修士 2 年の学生）によるインターンシップや、（有）本郷工業様の事業地視察の受け入れを行いました。



写真 14：思修館によるインターンシップ様子



写真 15：（有）本郷工業様による
事業地視察の受け入れ

2. 駐在員として仕事をする上で心がけていたこと

ミャンマー駐在員として業務をする中で、大切だと感じた事、心がけていたことを以下に記します。

・何にでも興味を持って、聞いて、学ぶ

ミャンマー駐在が始まった当初、上司や日本人専門家、現地スタッフに何でも聞いて学んでの繰り返しでした。どうしてこの現場ではコンクリートを使っているんだ？といった技術的なことから、会計処理の流れや村落立ち入り許可の取得などの事務的なことについてもとにかく質問して、事業がどのように回っているかを把握するように努めました。

最初は何をするにも勝手がわからず、何でもかんでも上司に相談して指示をもらっていました。しかし事業のことを学んで全体像が見えてくると、いま何をすべきか、どうすべきかが分かってきて、少しずつ自信と責任感を持って仕事をする事が出来るようになっていきました。

また事業に直接関係ないことでも、積極的に勉強する姿勢が大切でした。例えばミャンマーの文化や宗教、農村部の村人の生活の様子などに詳しくれば、仕事で事業説明をする際にも話の幅が広がり、説明に説得力を持たせる事が出来ます。ミャンマー駐在が始まった時、木村理事長から“何事にも興味を持って学ぶこと、それがその人の仕事の質に直結する”ということを教わりました。実際に仕事をしてみて、その大切さを実感した一年間でしたし、一生その言葉を忘れずにいたいと思っています。

・しっかり裏を取って確認しながら、慎重に物事を進める

ミャンマーはまだまだ政治状況が安定せず、また統制も取れてるとは言えないため、時期や担当官が変われば、政府としての対応がコロコロと変わります。例えばビザ申請一つとっても、前回に申請した時と同じように必要書類を用意したが、前回受けなかった指摘を受けて申請が出来なかった、なんてこともよくあります。

なので、前任の前田さんからの引き継ぎ時にも教わったことですが、出来る限り裏を取って、慎重に仕事を進めるという事が大切でした。たとえ1人の現地スタッフが No problem と言っても、怪しいと思ったら違うスタッフの意見を聞いてみたり、時には団体内部からだけではなく、ミャンマーに住む知人からも情報収集をしながら、どうすべきか判断するようにしていました。

・やるべき事は早くやる

私はついやるべきことを後回しにする癖があり、最初は、今やらなくて良いことは後でやる、といった仕事の仕方をしていました。その結果、別の仕事も立て込んで、焦って仕事をする事になり、報告書の期限が間に合わないといった迷惑をかけることもありました。

これではダメだと思い意識を改めて、やるべき仕事はすぐに手をつけるように心がけました。余裕を持って仕事ができればミスも防げますし、早め早めに対応してさえいれば大体のトラブルには対処法があります。本当に基本的なことですが、私がミャンマー駐在する中で身をもって学んだことでした。

・現地スタッフとのコミュニケーションの工夫

ミャンマーに常駐する唯一の日本人という立場である以上、現地スタッフなどと英語でコミュニケーションをとる機会が必然的に多くなります。私自身、渡緬前は英語力に不安を感じていて、実際最初の方は、現地スタッフと打ち合わせをする際にコミュニケーションが上手くいかなかったりして、もどかしい思いをしました。しかしスタッフと一緒に仕事をしたり、ご飯に行ったりする中で積極的に会話をする事を心がけるうちに、決して上手いとは言えないまでも、相手の言うことを聞き、伝えたいことを伝えることはできるようになってきました。

しかし、そうなってくると今度は現地スタッフの英語力で困る事が出てきました。スタッフ全員ある程度は英語を喋れるのですが、複雑な議論や抽象的な話が英語で出来るスタッフは少数派です。スタッフによってはこちらの指示がよく分からないのに ” Yes, I see “ なんて言ったりすることもあります。そこで、こちらが指示した後に内容がきちんと伝わっているか確認するため、指示した内容を自分の言葉で説明してもらったり、抽象的な内容を伝える際には具体例を用いたり、図を書いて説明するなど、話す相手によってコミュニケーションの仕方を工夫するようにしていました。

3. 駐在員の仕事のやりがいや魅力

一年間のミャンマー駐在で感じた、駐在員の仕事のやりがいや魅力を以下に記します。

・道路状況の改善とそれに伴う生活状況の変化

人口の約7割が農村部に住むミャンマーですが、農村部の道路状況は日本には想像もできないくらいに悪い事があります。特に雨季は、生活道路が歩くのすらままならないような状況になることもざらです。当然その分、道を作ることによるインパクトも大きいものとなります。当団体の道直しの事業により、道路状況が改善して通勤や通学の時間が大幅に短縮されるほか、道路沿線上で養鶏場を作る村人が出てきたり、バイクタクシーという新たな職業が生まれたりします。これらは私が赴任する前の過去4年間の事業の成果であり、この事業に一年間関わらせていただく中で、私もその変化を直に感じる事が出来ました。



写真 16：施工前の雨季における道路状況



写真 17：施工後の道で
バイクタクシーを利用する様子



写真 18：施工道路沿線上に出来た養鶏場

・外国を見る事で自国のことを知る

ミャンマーに駐在する一年間でミャンマーについて色々なことを学びましたが、それを通して自分の故郷である日本のことも知る事が出来たように思います。例えばミャンマー行政による道路整備の状況や工事の様子を見る中で、いかにいまの日本の道路整備状況や技術が進んでいるのか、またそこ至るまでにはどれだけ先人たちの労働と知恵の蓄積があったかを感じる事ができます。



写真 19：手作業でタールを撒いてアスファルト舗装をする様子
(ミャンマー地方道路開発局の施工道路)

他にも文化や宗教、生活様式など、至るところにある日本との差を見て、日本では当たり前だった事が当たり前ではなくなり、それについて興味が湧いてきます。近くからでは物の全体像はわからないのと同じで、日本を離れてみないと気づけない、興味を持ってないことは多いと思います。そのようなことに気づかせてくれるのが、日本を飛び出して海外に住む魅力の一つだと思います。

・ミャンマー人の親切さと勤勉さ

最初に事業地の村に入った時には、まず村人達がとても親切に歓迎してくれることに驚きました。私のような若輩者でも受け入れてくれて、温かくもてなしてくれるのです。またミャンマー人はとても勤勉で必死に道直しの技術を学ぼうとする姿勢があると感じました。他国でも道直しの経験がある日本人専門家も、ミャンマー人は他国と比べて勤勉で、道直しへの意識が高い、と仰っていました。ミャンマーは仏教国で、特に農村部においては、困った事があれば皆で協力して助け合おうという精神があります。そのような国民性が“村の道が悪ければ自分たちで直そう”という意識に現れているのではないかと思います。とにかく暖かく親切で、また本気で道を直そうとしているミャンマーの村人達に道直しの方法を教え、共に良い道を作っていくという道普請人の事業に関わることはとても刺激的で面白いものでした。



写真 20：ココナッツミルクを振舞ってくれる村人



写真 21：施工後の道路補修の仕方を示したマニュアルを熱心に読み込む村人たち

・道路整備の大切さを知る

私が退任する数日前に、ミャンマーに出向中の日本の建設省の方とお会いして道普請人の事業紹介をする機会がありました。その際に頂いたコメントの中で、とても印象に残っている言葉があるので以下に記します。

“自分たちの道は自分たちが直す、というテーマで住民が主体的に道直しをする道普請さんの事業はまさに土木の原点だと思う。今の日本では生活に不自由がない水準まで道路整備が進んでいる地域が多く、道の必要性、大切さを多くの人に理解してもらうことは難しいため、道路工事について住民からむしろ反発を受けながら仕事をすることも多い。そんな時はミャンマーで見たこと、経験したことを思い出して頑張してほしい”



写真 22：村人の手による道直しの様子

私が一年間駐在してミャンマー農村部での道直しの仕事に関わる中で、ミャンマー農村部雨季時の深刻な道路状況、それを改善しようと真剣に道直しに取り組む村人たちの姿、道を直したことで村の生活環境が改善される様子を目の当たりにしました。それらを通して、道路を整備して良い状態に保つことがいかに大変な事であり、また大切な事であるか、ということを経験させて頂いたように思います。これから先、場所が日本国内であれ海外であれ、そのことを忘れずに仕事をしたいと思います。

4. 終わりに

私のミャンマー駐在員としての生活は、2017年の冬に大学の事務室へ休学届けを出した後すぐに始まりました。初めて来た発展途上国、初めての海外生活、初めて持った社会人としての名刺、何もかもが初めてでした。そのような右も左も分からない状態から始まったミャンマー駐在員としての一年間は、今までの人生の中で一番刺激に溢れて、充実した一年間でした。時には自分の不甲斐なさから団体に迷惑をかけ、理事長や理事にこっぴどく怒られたりもしましたが、それらを経て人生の中で一番成長出来た一年でもあったと思います。道普請人ミャンマー駐在員としての一年間で得られた経験を糧に、この先も頑張っていこうと思います。



写真 23：道直しをする村人たちとの記念撮影

最後に道普請人理事長の木村先生、理事の福林先生を始め、ミャンマー駐在をする中でお世話になった全ての方にこの場を借りて御礼を申し上げます。一年間本当にお世話になりました。

以上。